（様式第８号）

事業報告書（令和４年度）

事業名　SDGs に取り組む ESD による地域教育力育成事業

団体名　岡山市京山地区 ESD・SDGs 推進協議会　担当者名　柏崎　希

※活動の様子がわかる写真と説明を必ず添付してください。

１．活動内容（日時、場所、参加対象者、人数、内容等）

【環境てんけん 2022(1)　春】

・日時：2022 年６月４日（土）9:30～12:30

・場所：京山地区内用水路、県総合グラウンド

・参加対象者：小学生から大人まで

・参加人数：103 人（学生ボランティアを含む）

・講師：柏雄介、松本英子

・内容等：持続性を損なっている地域課題を見つけ、解決に取り組む市民を育てることを目指し、活動に取り組んだ。例年は座主川での生物調査を行っているが、今回は水位上昇のため中止とした。岡山県総合グラウンドで植物と大気、騒音の調査を行い、その後観音寺用水「緑と水の道」で水辺の生き物と水質の調査を実施し、採取した生き物について講師から解説をいただいた。また用水路内及び周辺部のごみのポイ捨て調査と回収、水路内の保全も行った。その後公民館に戻り、活動の感想を用紙に記入した。

（様式第８号）

【SDGs・健康ウォークラリー】

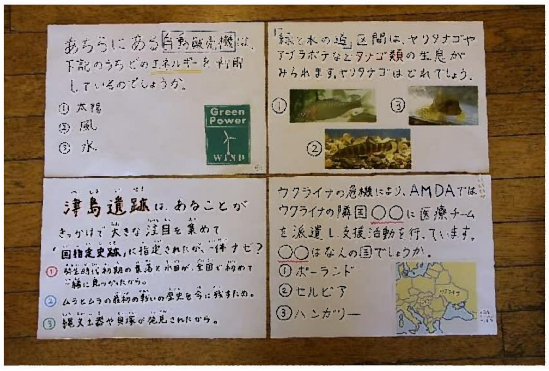
・日時：2022 年 11 月 19 日（土）9:30～12:30

・場所：京山中学校全域

・参加対象者：子どもから大人まで

・参加人数：55 人（学生ボランティアを含む）

・内容等：SDGs の視点から見た京山中学校区内の見所をピックアップし、短距離と長距離の 2 コースを設定した。見所選定、コース設定、クイズ作成、チェックポイントとなる企業等との交渉については、大学生ボランティアを募集し、主体的に進めてもらった。また当日運営には、中学生、高校生ボランティアにも関わってもらった。自分たちの住む地域の魅力を再発見し、SDGs についての理解を深める機会ともなり、学生と地域住民との交流もできた。



【環境てんけん 2022(2)　秋】

・日時：2022 年 11 月５日（土）9:30～12:30

・場所：京山地区内用水路、県総合グラウンド

・参加対象者：小学生から大人まで

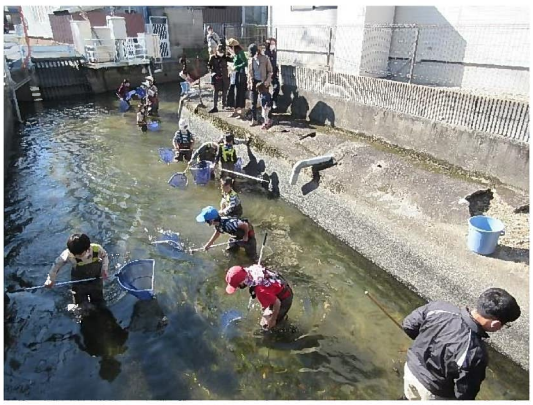
・参加人数：70 人（学生ボランティアを含む）

・講師：柏雄介、渡辺展久

・内容等：はじめは２グループに分かれ座主川で水辺の生き物、水質調査、総合グラウンドで植物と大気、騒音の調査、ドングリ等の採取を行い植物について講師から解説をいただいた。その後合流し、観音寺用水「緑と水の道」で水辺の生き物と水質の調査を実施し、採取した生き物について講師から解説をいただいた。また用水路内及び周辺部のごみのポ

（様式第８号）

イ捨て調査と回収、水路内の保全も行った。その後公民館に戻り、活動の感想を用紙に記入した。



【京山地区 ESD・SDGs フェスティバル】

・日時：2023 年１月 28 日（土）9:30～16:30、29 日（日）10:00～15:30

２月４日（土）13:30～15:30（京山ホタルトーク）

・場所：京山地公民館

・参加対象者：小学生から大人まで

・参加人数：3 日間で 700 人（学生ボランティアを含む）

・内容等：テーマ「京山から広げよう！SDGs でつながる未来」

★活動発表★伊島認定こども園、津島小学校、伊島小学校、京山中学校（以上 VTR）、烏城高校各学校の発表にコメントをいただいた。（岡山市教育委員会指導課、元京山中学校長）

★京山 ESD・SDGs 対話★

岡山市副市長、岡山市教育長、市議会議員、地域団体代表、ユース代表等が持続可能な社会づくり向けた意見交換を行った。

★地域の絆ワークショップ★

「コロナ禍後の『地域の絆』の第一歩を踏み出そう」をテーマに、地域活動の実践者やこれから地域のために何か行動したい方たちが集い、活動発表や意見交換を行った。

★京山カムカムトーク～SDGs 交流会～★

「マイボトル普及・プラスチック削減」をテーマに、活動に取り組む企業や団体、若者から話題提供いただき、参加者で意見交換を行った。

（様式第８号）

★ミュージカル作りから映画作りへ～つながるはばたき「映画」プロジェクト」★
劇団公民館☆京山の主催で、映画作りを多くの世代参加可能にするには？等について参加者が意見交換した。
★京山ホタルトーク★
ホタルの保全活動に取り組む団体の事例発表を聞き、また伊島学区にある観音寺用水を中心として、地域の現状と保全について理解を深め、地域全体としての取り組みやホタルの復活について参加者で考え、学んだ。
★その他★
20 のクイズで世界一周、ものづくり教室（岡山工業高校）、京山みんなのカフェ、こけ玉作り（藤クリーン株式会社）、フードドライブ（津島生活学校）、マジックキューブを作ろう（岡山県生涯学習センターぱるボランティア）、SDGs カルタ・世界遺産クイズ（岡山ユネスコ協会）、フェアトレード品販売（ダフェプロジェクト）、海ごみアクションプランを読む会（環境事業課）、竹細工ワークショップ、オリジナルタンブラー申込窓口、ポスター展示

（様式第８号）

２．ESD の視点
①事業を通じて、参加者にどのような気づきや意識・行動の変容があったか
環境てんけんやウォークラリー、フェスティバルを通して、京山地区に愛着と誇りをもって、京山地区のことを自分事として考えられる人が増えてきていることが、事業時に行ったアンケート（ふりかえり）の記述から読み取れる。
②どのように学び合いを取り入れたか
ESD・SDGs フェスティバルといった場を活かして、「京山 ESD・SDGs 対話」、「地域の絆ワークショップ」、「京山カムカムトーク～SDGs 交流会～」、「京山ホタルトーク」など、対話型の学び合いの場をつくることで、多様な学び合いが多数できるようにした。
③どのような学びと実践を結び付ける工夫を行ったか
学びの場を、「説明・納得型」ではなく、「発問・対話型」が主となるようにすることで、学びから探究、主体的な実践行動へと変容していけるように工夫した。また、今年度、学びから実践へということで、オリジナルタンブラーの取組を行っているが、タンブラーを配布ではなく、モニターとして提供することで、もらって終わりにならないようにし、使ってもらう（実践してもらう）ように工夫した。
３．取組の成果（事業計画書に記載した事業の目的・目標をどのように達成できたか。事業を実施してどのような成果があったか。）
昨年度まではコロナ禍による活動の制約を強く受けたため、計画していた活動の多くが中止や計画変更せざるを得なかったが、今年度は実施方法を工夫しながら、通常に近い活動を行うことができた。 環境てんけん活動や SDGs・健康ウォークラリーは、長期間コロナ禍でボランティアの機会がなかった中高大学生が多く参画し、自分たちだけでなく地域社会全体を視野に入れ「人のために自分が役に立てること」を実感する機会ともなった。 ここ京山地区は、高校と大学がそれぞれ３校あるため、毎回、多くの新しい若者を育成できているという点では大きな成果があると言える。近年、高校も大学も地域のボランティア活動への参加を強めているだけに、高校や大学との連携の仕組みができているのは当地区の大きな強みである。スタッフとして企画からボランティア参加した学生達のふりかえり（感想）などを見ると、企画から主体的に関われたことが、本人の意識と行動を大きく変容させていることがわかる。参加者をいかに「お客さん」にしないか、「主体的な参加者」にできるかで、成果は大きく異なることを本年度の取組を通して強く感じた。
４．今後の課題と展望（事業がどのように岡山地域の ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続につながるか）
今年度から始めたオリジナルタンブラーの取組は、モニター制度導入により、使ってどうなのかのデータが入手でき、学びから実践により効果的に取り組むための方策、改善へとつながる。この取組は、今後の岡山地域での ESD の取組と持続可能な社会づくりの発展・継続に役立つ情報を提供できるものと思われるので、積極的に情報提供していきたい。